

記者懇談会の記録

日 時	令和 3 年 4 月 26 日（月） 15 : 30～16 : 17
場 所	岩見沢市役所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数	9 人

1 令和 2 年度 除排雪事業について

（市長）

まず、降雪と積雪の状況ですが、3月31日までの累積の降雪量は9メートル44センチと平年を大きく上回りました。最大積雪深も、平成23年度に記録した2メートル8センチに迫る観測史上第2位の2メートル5センチを2月25日に記録いたしました。このほか、今年の冬の最深積雪深の記録としては、昨年12月22日に記録した1メートル42センチが12月の観測史上第1位、3月2日に記録した1メートル95センチも、3月の観測史上第1位となったところでございます。

次に除排雪ですが、12月からの記録的な豪雪に対して、これまで強化してきた機動力を最大限に活用し、当市の除排雪業務受託者とともに除排雪作業に努めたほか、北海道と連携した応援除雪に加えまして、岩見沢土木事業協同組合の市内業者による夜間専用の運搬排雪班も編成し、昼夜を問わず排雪作業を継続したところでございます。

また、除排雪に係る予算も予備費の充当や3回の補正予算を計上し、過去最高額の26億6,300万円となる見込みです。

大変厳しい冬ではありましたが、9年前の豪雪に比べて、迅速に対応し、市民生活への影響をなんとか減少し、最小限に留めることができたのではないかと考えております。

次に、総合的な雪対策といたしましては、12月18日に本部体制を豪雪対策本部に引き上げ、高齢者世帯等への訪問調査を4回実施するとともに、人命に関わるような屋根からの落雪や暴風雪への警戒について、市の防災メールに加え、ヤフー防災速報も活用し、情報発信を強化したところですが、大変残念ではございますが、事故により6名の方が亡くなりました。お亡くなりになりました方には、改めて心からご冥福をお祈り申し上げる次第でございます。

また、建物被害も昨年の1棟から33棟と、大幅に増えたところです。

<質疑応答>

（プレス空知）

被害状況ですが、今、建物で33棟ということでしたが、例えば、農業被害の類というのはどのようなになっていますでしょうか。

（市長）

農業被害ですが、JA岩見沢と連携いたしまして、現在のところ把握しているのが、ビニールハ

ウスが JA いわみざわ分と JA みねのぶ分を合わせて 222 棟、それと、大変懸念しておりますが、毛陽方面の果樹等の被害については、まだ正確な被害状況を把握しておりません。9 年前の被害を大きく上回るのではないかとということで、今後の経営再建に向けて経営者の方と十分協議をして、対策を取っていきたいと考えています。

(プレス空知)

その他、農業施設の関係で被害はなかったですか。

(市長)

主なものはビニールハウスの被害と、果樹被害ということで押さえています。

(北海道新聞)

今の質問に関連して、果樹被害に対して、市として保障といいますか、何らかの被害にあわれた部分についての対応というのは何か今ご検討されているものはありますか。

(市長)

9 年前の豪雪の時に、苗木購入の支援ですとか、あるいは枝折れに伴う腐敗防止ですとか、薬剤の購入ですとか、そういったものを行っておりますので、それを参考にしながら、まずは経営再建ができるようなしっかりとした対策を、市としても連携を取って行っていきたいと思っています。私も 4 月に入って一度見てきましたけれども、ちょうど例えば 9 年前に植えて、これから大きく実がなるような枝が折れている状態ですので、そのことを踏まえて対策を取りたいと思っています。

(読売新聞)

先ほど、市民生活への影響が最小限に抑えられたと思うとありましたが、これはどういう面で抑えられたという実感があるのでしょうか。

(市長)

12 月の初旬からドカ雪が続きまして、12 月の状況というのが、23 年シーズンを上回るのではないかと、特に担当サイドではそれを大きく懸念しておりますが、私自身はそうならないように願っていたということもあるのですが、実際に、日中もドカ雪が続き、夜間の除雪事業で車道幅を拡幅しましたが、一日前の状態に戻るのがやっとでした。従って、12 月 12 日から昨年の年内一杯は継続して運搬排雪作業をしました。

ですから、災害並みの豪雪だったのですが、何とか災害にしないように、できるだけその影響を最小限に留めると、特に、昨シーズンは 5 メートルということで、ほとんど影響がなかったのですが、災害並みの豪雪に対して災害にしないように、除排雪業者と連携して、機動力を発揮し、昼夜連続の作業に当たって、何とか抑え込んだ。当然被害や影響は出たのですが、何とかそれを最小限に留めることができたのではないかと、という意味で、先ほど申し上げた通りです。

(プレス空知)

先ほど施設の被害の関係を確認したのですが、建物というのは民間の建物かと思うのですが、公共施設の被害というか、補修しなければならない箇所などの調査はどうなっていますか。

(市長)

公共施設の大きな被害はないです。報告は上がってきていませんが、市営住宅関連の調査を今鋭意進めていますので、その点で若干被害報告が上がってくるかどうかと、いうところかと思えます。また、3月31日までの時点での被害状況の把握が、これから大雪による住家被害、例えば壁の損傷ですとか、そういったものもこれから報告が上がってきます。23年シーズンは確か200件を超える被害状況が出ましたけれども、これから保険調査等踏まえて、被害証明などの発行をいたしますので、それに近づいてくるのではないのかなと思います。

それから、これは特徴的かもしれませんが、皆さまもご存知のとおり、プレミアム建設券の発行事業を2回に分けて行っていますが、1回目の募集に対して120%を大きく超える申し込みがあったかと思えます。これもおそらく保険を使って家を直すこととあわせて住宅被害の修理に対してプレミアム建設券のご要望が多かったのではないかと現時点では考えています。ですから今年は、プレミアム建設券の応募状況等についても、豪雪、大雪という特殊要因を踏まえた特例的な措置が必要だろうということで、実行委員会あるいは商工会議所とも連携をして、1回目に申し込んだ方については全員通すということにさせていただきました。

(プレス空知)

特例というところで、例えば当初予算で組んでいたものが実際2回目の申し込みも殺到してしまったときに、予算を補正するとか、そういった形で発行総数を増やすということも想定にありますか。

(市長)

まだ2回目の募集を終えていないので、はっきりした数字としては確認できないのですが、当初2回目に予定した分を1回目である程度大きくはき出す、予算としては消化するような形になりますので、2回目の募集状況を見て、補正予算等が必要になるようなケースも十分考えられると私自身は思っていますので、そこは適切に対応してもらいたいと思っています。

ただ、前にも1回目が若干オーバーしていた年というのが実はあるのですが、2回目の募集をしたら予算全体では下回ったというケースもありますので、これは今後、特にやはり大雪に対する被害は速やかに修理をしたい、改修をしたいというご要望も多いでしょうから、その状況を見極めたうえでしっかり対応したいと思います。

2 新型コロナウイルスワクチン接種の進捗状況について

(市長)

新型コロナウイルスワクチン接種の進捗状況についてご説明をいたします。

はじめに、ワクチンの接種につきまして、今後の予定に一定程度の目途がたったのでご説明をいたします。今後のワクチン供給日程や供給量によっては、なお変更になる場合がございますのでご留意いただきたいと思います。

最初に、ワクチン接種スケジュールになります。既にお知らせいたしましたとおり4月19日月

曜日から市内の高齢者施設 6 か所で先行接種を開始いたしました。5 月 10 日からは残りの高齢者施設 41 か所で順次接種を開始する予定でございます。さらに、5 月 24 日からは、65 歳以上の高齢者接種を開始いたします。

2 番目に、接種券の発送ですが、5 月 7 日金曜日から、年齢階層ごとに順次発送いたします。最初に、85 歳以上、2 回目に 80 歳以上 85 歳未満、5 歳の階層別に順次年齢層を下げて、接種券を配送する予定です。5 月中はワクチンの供給量に限りがあるのも事実でございますので、時期をずらして順次発送するということです。なお、年齢階層ごとの発送予定日につきましては、添付のチラシに掲載のとおりです。チラシに書いてあるとおり、85 歳以上からスタートして、65 歳以上 70 歳未満、高齢者最後の接種券の発送が 5 月 25 日の予定ということになります。

3 番目、予約の受付は連休明け 5 月 11 日火曜日から、接種券が届いた方からコールセンターで順次受付を開始いたします。あわせてインターネットでの予約も開始できるよう準備を進めているところです。

予約をいただいた方へは、市独自の取組みとして、接種忘れや接種当日の受付時間を短縮するために、接種日、時間、会場を記載した案内文と予診票を郵送いたします。なお、予診票につきましては事前に記入していただき、当日持参していただくこととしております。

高齢者以外の接種につきましては、今後決まり次第、市の広報やホームページ、あるいは皆さまを通じて周知を図らせていただきたいと思いますと考えています。

4 番目といたしまして、接種に向けた移動手段の確保と障がいのある方への配慮でございます。

高齢者や障がいのある方が安心して接種を受けられるように、市の独自事業ですが、タクシー利用券を交付いたします。助成額はお一人 2,200 円、市内タクシーの初乗り料金 550 円相当を接種 2 回分の往復分といたしまして、合計 4 枚を交付します。介護タクシー、乗り合いタクシーを含めた市内の全てのタクシーが利用できることとなります。

また、障がいのある方への配慮といたしまして、視覚障がいの方へは、接種の案内を音声にしました CD を配布するとともに、手話通訳が必要な方へは、市の手話通訳者の派遣や、集団接種会場へは筆談ボードを配置するなどの配慮をまいります。

5 番目です。接種体制につきましては、個別接種を 5 月 24 日月曜日から市内医療機関 41 か所で開始し、集団接種は翌日の 25 日火曜日から岩見沢駅前にあります、岩見沢市コミュニティプラザをメイン会場に、いわみざわ健康ひろば、あるいは市内各所で接種を予定しているところがございます。

また、集団接種では、接種後の健康観察の時間に会場内でタブレット端末を使い 2 回目の予約を受付けることとしております。

なお、市内 41 医療機関のうち、入通院患者のみ接種する医療機関が 17 医療機関ございますが、こちらにつきましては、医療機関から個別に患者さんへ接種の有無をお聞きしますのでチラシへの掲載はしていませんが、通院先の医療機関が接種を行っているか否かはコールセンターにお問合せいただきたいと思いますと考えています。

なお、接種にあたりましては、医療機関の医師、看護師を除き、市職員 72 名、内訳は、事務職員 52 名、保健師 19 名、看護師 1 名のほか、派遣会社職員 5 名、民間委託のコールセンター職員 10 名、そのほか、看護師 40 名の総勢 127 名体制で実施することとしております。

6 番目に、集団接種に向けた最終リハーサルについてです。5 月 12 日水曜日に岩見沢市コミュニティプラザで最終リハーサルを予定しております。

このリハーサルでは、受付から接種までの流れや接種手順、時間などの最終確認を行うこととしています。また、実際に接種を行う医師、看護師が接種従事者への接種を兼ねて実際にワクチン接種のテストを行う予定です。

7 番目といたしまして、医療従事者への接種予定です。医療従事者への接種は、北海道が行うこととなっておりますが、市といたしましても、北海道との連携や支援を行い、高齢者の接種が始まる 5 月 24 日までに 2 回目の接種が完了できる見込みで現在接種を進めているところです。

8 番目に、ワクチンの入荷予定です。これがよく変わります。既に報道されているとおり、4 月 17 日に 1 箱、5 月 2 日に 6 箱が入荷する予定となっております、以後の入荷につきましても、週ごとに国と調整して入荷する予定となっております。

9 番目、接種を行う医療機関へのワクチン配送につきましては、毎週月曜日にいわみざわ健康ひろばで小分け作業をして、佐川急便を通じて市内各医療機関へ配送する体制をとっております。

最後に 10 番目、ワクチンの廃棄を出さないための取組みでございます。市では、個別接種、集団接種において急なキャンセル等が発生した場合、事前に登録した名簿の順位、1 番目に未接種の医療機関従事者、2 番目に障がい者施設、入所施設の職員、3 番目に介護施設に出入りする市の職員の順に案内をし、接種を行い、貴重なワクチンの廃棄が生じないよう取組んでまいりたいと思います。

< 質疑応答 >

(北海道新聞)

1 点目に、10 日から始める他の高齢者施設 41 施設での接種の開始について、41 施設で想定人数は何人なのか教えてください。

2 点目、10 番のワクチンの廃棄を出さないための取組みとして、キャンセルが出た場合、会場に接種名簿の順位登録されている方何人かを基本待機させておく、何人かは常にいらっしゃるというイメージでよろしいでしょうか。

(市長)

まず高齢者施設での接種を 10 日から 41 施設開始しますが、対象人数は、

(健康福祉部長)

入所者と職員あわせて 2,284 人です。

(北海道新聞)

入所者と職員あわせてこの人数に対して 10 日から接種開始ということでしょうか。

(健康福祉部長)

そうです。

(市長)

それと、廃棄を出さないための取り組みですが、今使っているのがファイザー社製のワクチンなので、解凍して5時間以内に接種を終えなければならないという時間的な制限もありますので、あらかじめ会場にいる医療従事者を除いて先ほど申し上げた待機リストを作っておきまして、その人数が、

(健康福祉部長)

障がい者福祉施設で181人、市の職員のうち介護施設に出入りするものが25人です。

(市長)

それで、電話連絡です。会場で待機というより、状況を見ながら、速やかに来ることができるということで待機リストを作っておりますので、定められた時間内に接種を終えるための連絡体制を確立しているということになります。

(北海道新聞)

キャンセル等が発生して、これは、ということになりそうなら、その場でそのリストに載っている方に連絡をして、その方に速やかに会場に来ていただくと。

(市長)

はい。会場に来ていただくということです。

(北海道新聞)

数字の確認です。障がい者福祉施設の職員さんが181人で、施設に出入りする市の職員さんが25人。医療従事者の待機リストに載るであろう想定は何人くらいでしょうか。

(健康福祉部長)

今のところ、医療従事者は24日までに接種を終える予定をしておりますので、もし終えることができない場合は、リストに追加するという予定です。

(北海道新聞)

もし積み残した分があればということですか。

(健康福祉部長)

はい。

(読売新聞)

65歳以上の接種対象者は、今何人いるのでしょうか。

(健康福祉部長)

65歳以上で、今30,024人います。ただ先ほど申し上げましたとおり、先に6施設始めており、10日から41施設で接種しますので、それを除きますと、28,073人。これは3月末時点での人口です。そこに接種率をかけて算出して予定をしております。

(読売新聞)

先行の6施設の対象者は何人ですか。

(健康福祉部長)

従事者を除いた入所者は6施設で537人、残る41施設で1,414人、合わせて1,951人です。残りが28,073人で、65歳以上合計すると30,024人です。

(市長)

今接種率を70%くらいで換算していますので、先ほど申し上げた対象人員の数字に70%をかけて接種予定人数という把握で今作業を進めています。ただ接種希望が多ければ当然接種数が増えてくるので、予定も若干変更することがあり得ます。

(読売新聞)

70%は実感としては多いという感じなのか、それともやはり少ないという感じなのでしょうか。

(市長)

70%とは、まだあくまでも想定数で、申し込みを受けての数字ではありませんので。

(北海道新聞)

確認です。先ほどお答えいただいた41施設の2,284人は、入所者と施設の職員さんを合わせた数ですか。

(健康福祉部長)

41施設の入所者と職員で2,284人です。

(北海道新聞)

41施設の入所者だけだと1,414人。

(健康福祉部長)

そうです。

(読売新聞)

先行の6施設は入所者と職員合わせると何人ですか

(健康福祉部長)

975人です。接種希望者を5の倍数で割れるように施設を調整しています。

(プレス空知)

5番の接種体制のところ、集団接種はコミュニティプラザをメイン会場にという説明がありましたが、7月以降は健康ひろばや各所に拡大するという解釈でよろしいですか。

(健康福祉部長)

はい。コミュニティプラザが一番多く接種ができるので、まずは少しでも数をこなしたいということで、7月以降には順次ほかの場所でも行うということです。

(プレス空知)

7番の、医療従事者への接種予定ということで、24日までに2回の接種を終える見込みとあるのは、チラシの個別接種のところに書いてある23医院が対象ということでしょうか。

(健康福祉部長)

チラシに書いていない、入院・通院患者のみ接種を行う医療機関もありますので、41 医療機関になります。今既に接種を終えている市立総合病院と中央労災病院を除いて、41 の医療機関です。

(プレス空知)

そうすると、その下に、その他の医療機関は順次実施予定と書いてあります、この「その他の医療機関」とはどのくらいありますか

(健康福祉部長)

医療従事者については北海道で実施していきまして、医療機関だけだと私どもも把握できるのですが、医療従事者の中には薬局、消防等も入るものですから、北海道に登録されている従事者になりますので、機関数となると申し訳ないですが正確に出てこないです。

(プレス空知)

医療機関数だと把握できるところでいくつくらいありますか。

(健康福祉部長)

医療機関は市立総合病院と中央労災病院を除いて、会社と病院を合わせて 120 あります。

(プレス空知)

10 番の未接種の医療従事者とあるのは、7 番の 3 目にあたる人たちがリストアップされるということでしょうか。先ほどのお答えだと、24 日までに終わる予定だけれども、漏れた方がいた場合にと聞こえたのですが。

(健康福祉部長)

両方になります。24 日までもし終わらなければリストに入れていきますけれども、それ以降も医療従事者枠で接種できない可能性があれば入れていきます。ただ今の所全て接種できる見込みと北海道からは報告を受けています。

(プレス空知)

北海道ではそこまでに終わるという説明だけれども、実際は終わらないかもしれないということですね。

(健康福祉部長)

これから順次やっていきますので確約はできません。

(プレス空知)

既に終了している医療機関で中央労災病院と市立総合病院とありましたが、市立総合病院は最初のリリースをいただいた時に事務部に確認した際、全員対象になるけれどもまだ当初は回ってこない、ということだったのですが、その部分は終わっているのでしょうか。要は、市立総合病院で働いている方で希望された方は 100%終わっていたのでしょうか。

(健康福祉部長)

希望された方は全員で 738 人いるのですが、それは今終わる予定だということです。北海道で行っていますので、24 日までかどうかは確認が必要ですがけれども。

(プレス空知)

市立総合病院の事務部に確認してみたらわかりますね。

あともう1点、5番の接種体制のところ、看護師が40名とありましたが、以前の説明の中で、市立総合病院を退職された方で、協力もやぶさかではないという方がいらっしゃるということだったのですが、その方も含めての40人ということですか。

(健康福祉部長)

そうです。毎日ではないですけども勤務されている看護師さんもありますし、全てがOBとは限りません。

(プレス空知)

元市立総合病院の方。

(健康福祉部長)

はい。

(プレス空知)

40人中何人ですか。

(健康福祉部長)

後ほど確認してお答えします。

3 令和3年度 工事発注計画について

(市長)

それでは工事発注計画、今年の分になりますが、ご説明いたします。

この間、コロナ禍もありまして、月例の経済報告に、あるいは北海道の経済動向につきましても、直近の報告、それぞれ4月ですが、全体的には「持ち直しの動きに弱さがみられる」、あるいは「依然として厳しい状況にある」というような表現が使われております。

岩見沢の経済状況におきましても、やはり厳しい状況にあるというふうには認識をしているところです。

そこで今年、今年度発注を予定している工事費でございますが、今年はちょっと特異な年にも当たるのですが、まず初めに、現在予定している工事費につきましては一般会計と特別会計、企業会計を合わせると、100億600万円、132件になります。

その内訳ですが、資料にも記載のとおり、一般会計では72億2,700万円、98件、特別会計では、約1億3,500万円、1件、企業会計では、約19億3,000万円、25件、それと昨年度予算の繰越分が、約7億3,000万円、8件となっております。

令和2年度の81億7,300万円、145件と比較をして、18億3,300万円、22.4%の増加です。これは全体像でございます。

主な事業ですが、新庁舎の改築関係で約43.2億円、ただこのうち新規発注分、出来高ベースですけれども、これは1.3億円でございます、残りの41.9億円はもうすでに発注済みになります。

そのほか、南利根別排水機場の整備に約 4 億円、南光園の処理場改築に約 11 億円、これはいずれも継続事業です。また新規といたしましては赤川開拓 3 号線の道路改良工事に約 2 億円、市営球場改修に約 3 億円、といった案件を予定しております。

そこで上半期の工事発注率の目標ですが、今年度も岩見沢市内の経済の活性化の観点から、できる限り早期の発注を行いたいと思います。

上半期 4 月から 9 月までの工事の発注計画は、発注予定額で総額約 99 億 6,700 万円（126 件）ですが、発注率は 99.6%を目標としたところです。

この発注率は、前年度の目標値 95.6%と比較しますと、4 ポイント高い数値を設定しました。

なお先程申し上げました新庁舎の改築関係の 41.9 億円をはじめ、既に 51.7 億円、予算額の 50%以上が発注済みという、そういった意味では大変特異な年でありまして、当然のことながら、そのことを踏まえて第 1 四半期時点では、その時点では 86.2%の工事発注率を設定し、上半期ベースでは 99.6%を目指すとしているところです。

工事の早期実施を通じて、建設業は非常に裾野の広い業種でございますので、地域経済への波及効果が発揮されるよう、可能な限り達成することによって、雇用対策あるいは景気対策に努めていく方針でございます。

<質疑応答>

なし

4 「成人の日記念式典の開催」について

(市長)

5 月 2 日に延期をいたしました成人の日の記念式典について、最近、道内の都市では成人式を再度延期するなどの動きも出てきているところではありますが、岩見沢市では感染防止対策を十分に講じた上で、予定通り 5 月 2 日、日曜日に式典を実施することとしております。

感染防止対策につきましては、式典の会場を例年実施しております「イベントホール赤れんが」から、会場内が密接あるいは密集とならないように、より収容人数の大きい「まなみーる市民会館大ホール」に変更しております。式典内容も、これまで実施しておりました新成人同士の交流会を取り止め式典のみとし、時間は 30 分を予定しております。

また会場内への入場は、例年ですと保護者の方も同伴してご出席、ご参加いただくケースがありましたが、今年は新成人のみとしまして、入場する際の新成人と、退場する新成人の交錯あるいは会場内での滞留を防ぐように動線を工夫し、さらに入場人数を制限するため、卒業した中学校別に対象者を分け、完全入れ替え制による式典を、5 月 2 日に時間を変えて 3 回実施いたします。

なお座席につきましては指定席ということにいたしました。それぞれの回に入場できる新成人は配布いたしました資料の通りとなっております。

対象となる新成人は令和 2 年 11 月 1 日現在ですが、市内に住民登録のある 668 人としたところ
です。

また、式典後の会食による感染防止のために、新成人に対しましては式典終了後の会食の自粛
を強く呼びかけることとしたところです。

< 質疑応答 >

なし

その他の質疑応答

(北海道新聞)

コロナの関係ですが、まもなく迎える大型連休の期間中、感染対策を講じながら、という形で、
昨年と比べると動きが出てくるのかなと思うのですが、空知管内、岩見沢では感染が急激に増え
ているという状況ではないのですが、全国的には、あるいは北海道の中でも岩見沢に比較的近い
札幌での感染が決して状況として良くない中、そしてイベント、人の動きがあるような状況の中、
改めて大型連休に向けて、市長からのメッセージとして、どういう取り組みを呼び掛けられる考
えでいらっしゃいますか。

(市長)

やはり、道内では札幌市が突出して感染が拡大している状況にありますので、札幌市との往来
については市民の方にも自粛をしていただきたい。以前は「感染の防止対策が取られていない場
合は」というような表現が付いていましたけれども、今回は北海道からもそういった要件を外し
て札幌市との往来を控えていただきたいと要請が出ていますし、特に変異株が、感染力が高くて
若者にも感染が広がりやすく、なおかつ重症化のリスクが高い、それに伴って致死率も高い傾向
にあるというような知見が報告されておりますので、やはりステイホームを基本としながら、ゴ
ールデンウィークを過ごしていただきたいなと思っています。

(読売新聞)

先程聞き忘れたのですが、除排雪の関係で、苦情要望件数がトータルで 4,797 件ということな
のですが、それは他の年と比較したらどれくらい多いのでしょうか。

(市長)

記者懇談会資料の表紙をめくっていただいて、令和 2 年度除排雪事業とありますが、その一番
下の 6 番目に「苦情・要望等受付状況」があります。…改めて見ると去年は 337 件だったのです
ね。ちょっとショックですね。

(北海道新聞)

先程の関連で、連休期間中のステイホームを基本としてというような市長のお話でしたが、私
も取材以外はステイホームしていようと思うのですが、大型連休期間、市長はどうされるので
か。

(市長)

ステイホームです。本当に。

ちょうどこれから岩見沢でも桜の花が咲いて、陽気も良くなり、ただ連休中は雨の予報が多いように聞いていますけれども、出掛ける際には感染防止対策を、ご自分自身で、あるいは家族でも、十分気を付けて楽しんでいただきたいと思います。ただ、今年も桜の名所、特に花見等では山七公園がよく使われるのですが、今年も山七公園での花見は禁止ということで、遠くから静かに眺めていただきたいと思います。

私自身はステイホームで。仕事で出る機会も確かにあるので、成人式もありますから役所には出てきますが、それ以外はステイホームです。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)